WASON
HQ
1104
J741

Dec. 9
1888
No. 139

The Woman's Magazine.

女學雜誌

一冊五錢
當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿一年（第百參拾九號）十二月八日發

社説
將來の日本人民（第三）幼稚園

論説
日本人民は美術心に富める乎（大西祝）

批評
歌舞妓の始と云ふ阿國は佐渡の人なる事〇女學雜誌の遁辭〇文覺上人勸進帳を讀む（不知庵主人）

叢話
萬國赤十字社大會の感（石黒忠悳）〇婦人の德は余閑に在り（中島俊子）〇色と慾〇一唱百歎〇女子看護法の心得（津田梅子）〇婦人衛生一斑（櫻井郁次郎）

小説
哲女の卷

佳傳
正傳尼、妙海尼

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J74+

Dec. 8
1888
no. 139

The Woman's Magazine.

女學雜誌

版權所有　各土曜日出版

一冊五錢　當府内無郵税

明治廿一年（第百參拾九號）十二月八日發

社説
将來の日本人民（第三）幼稚園

論説
日本人民は美術心に富める乎（大西祝）

批評
歌舞妓の始と云ふ阿國は佐渡の人なる事○女學雜誌の邃辭○文覺上人勸進帳を讀む（不知庵主人）

叢話
萬國赤十字社大會の感（石黒忠悳）○婦人の徳は余韻に在り（中島俊子）○色と慾○一唱百歎○女子看護法の心得（津田梅子）○婦人衛生一斑（櫻井郁次郎）

小説
哲女の巻

佳傳
正傳尼、妙海尼

寄書
新報
外報
小供談

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 139. DECEMBER 8TH, 1888.

EDITORIAL:— The Future Japanese Nation (Kinder Garden).

LEADING ARTICLES:— Japanese People and Art. by Mr. H. Onishi.

CRITICAL NOTES:— "A Dancing girl Kuni of Sado." "An Evasive Reply made by the Woman's Magazine." "Mongaku Shonin's Kanjinchiyo."

MISCELLANIES:— "At the Great Conference of the Red Cross-Society (Dr. T. Isiguro)." "Woman's Silent Influence." "Passion and Avarice." "Hints about Nursing (Miss M. Tsuda)." "Hygiene for Womans." (Mr. I. Sakurai)

NOVELS:— Tetsujo no Maki.

BIOGRAPHIES.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

通信女學 第拾五巻 發兌

善し最良の教科書

[illegible]

十一月廿九日出版せり

定價一冊廿錢全國郵税 枚數七十頁

●珊瑚の珠（第八十九回）

やしあひ草

或人二人の女ありけるが此母甚だ正しく直なる人にてありけるに頃しも睦月の末ありけるに庭のかきねに咲出し梅の盛りなるを見て姉妹を訓へて云ふよふ本と草木の情あしと云とも花實時を違へず春の陽氣を迎へてハ花も咲き實もむすぶ是れ天然の道にして敎へざれども自づから天の心に背かずして時を知る人は天の正しき氣を受て生るれども形にひかされ天の理に背けり之を以て敎への道あるなり二人ともあだ花とありて散るとあかれ實とありて能く父に事へよされど仇に散り實とあると人の死生に喩ふれば何れも天の言付なれども今爰にさとすとハ善惡に喩へたり父母の撫育を守り溫順篤行あるは實を結ぶに同じ又父母の訓へに違ひ剛情不德にして親を恥かしむるは仇花とありて散るに同じ無情の草木さへも時をたかへざるに况して人として天の道に背くは鳥獸にも劣るべし努〻此の事を忘れたまふまじと敎へさとされけるとかや。

大江千里

けさいしも起けんかたもしらさりつ思ひ出ると聞て悲しき。

女學雜誌 第百三十九號 明治二十一年十二月八日發兌

社説

○將來の日本人民。

三。幼稚園。

那須の與一は名だゝる射手なり、弓を滿引して兵と放てば、長鳴的中、扇を要め際一寸計に於てひいふつとぞ射切たり。此時若し女學子仰せを蒙つて罷り出て、揉烏帽子引立て、海紅梅の鉢巻して、手綱かいくり海上一段計り騎入つゝ、南無八幡別しては我國の神明日光權現宇都宮那須湯泉大明神、願はくはあの扇の眞中射させて給せ給へやと祈念しつゝ、閉目凜然、よつ引ひやうと放したらんには、さてこそ失またず確かに射損じたることにて候うべし。何故に與一が矢は當り、女學子が矢は外れたるか、否な少々の外れ樣にはあらず、何故に斯く大層に外れたるかと云はゞ、蓋し之が覘ひを着くる時に於て、之を兵と射放すときに於て、先づ僅かに分厘の相違を生じたるに由るなり、即はち其の手元に於ての分厘の相違は、前途に於て既に數百間の相違となるに由る也。如此く人生れて大いなる賢愚あるなし、只だ其の小兒の時に於て幾千の差を生ずるときは、此差年と共に增大して、後年遂に千里の大相違を生ずるに至るべし、左れば射るものは先づ其身を正しうす、之を其の初めに愼しむ也、人を教育するものは先づ其幼時を重んず、幼時の習慣何如んは、長ずるの後ち復た容易く改たむ可らざるに由る也。

左れば、小兒の教え方は總べての教育中の尤も大切なるものなるに、世人多くは之を顧みず、男女すでに長じて十、一二才となりたる時、最早之を棄てゝも措かれずとて、初めて之を學校に送るものあり、尙ほ更らに教育に熱心なる父兄と云へるものにても、其子の六七才となりたる時則はち小學校に上らしめて、自分は子弟を教ゆるに於て斯迄熱心なりと得意なるものあり、然るに十一二才にして初めて教育するものは既に十一二年を後れたり、六七才にして初めて教育するものは亦既でに六七年を後れたりと云ふべし、眞正の教育は赤子の呱々として快叫を發したるの時、否な蠢爾として胎内に動き出したるの時より始まるもの也。西國立志篇に云く、一母あり四才の子を懷けるが、牧師に問ふて何れの時より教育の事を始めて宜しかるべきやと云ふ、牧師曰く汝今まで教育の事を始め玉はねば、汝ちはこの四年を失なひし也、この小兒の

顏の上に、汝の笑ふ光の始めて照せし時より（從譯文）汝が教育の機會は始まりし也と、蓋し愚見に同じ。

假りに吾人が立たる場所より的鵠に至る迄でを七十間ありとせんに、單矢吾人の手を離れて先途の的鵠に達するの樣は、恰かも吾人が人世七十の長路を行くに似たり、左れば弓の矢の方向に就て、其の手元より六七間の間だ、若しくは十一二間の間だは勝手にして宜ろし、此の隔たりに至りて後ち初めて其のチラヒを正しうし、其の走りを速かにすべしと云はゞ何如ん、天下之よりも愚なるとはあらじ、嗚呼矢の弓を離る數間の間だこそ特に尤も用心すべき者あれ、其の手元に近ければ近きほど、即はち其の始めに反れば反るほどに用心の大切なるとを知らば、即ち亦小兒の幼なければ幼なきほどに其教育を大切にせねば成らぬとを知るべし。

之を以て、小兒を小學校に送る以前に於ての教育に二樣ありとして、學者尤も之を重んず、一を家庭の教育と云ふ、二を幼稚園の教育と云ふ。

先づ幼稚園の教育なるものは、二三才以上六七才以下の童男童女を集め、保姆之を監して、遊戲和樂せしめ、其の遊戲和樂の間だに於て自然の靈能を發育するの工夫たり、古來其の教理を論じたる學者尠なからずして、支那にも西洋にも夙に其說はありたるとなれども、今を距る一百年前の頃よりして、西洋の瑞西佛蘭西日耳曼等に於て特に之を論ずるものあり、中にも彼のロウソウ、ペスタロッヂの如き大家は尤も強よく之を主張したるものあるが、然れども始めて幼稚園と云へるものを實際に創設したるは、之を日耳曼の義人、フレデリッキ、フレーベルの大功に歸するは勿論の事なり。彼れ幼にして母を失ひ、不慈の繼母に育くまれ、頑惡の姆に護せられ、天質痿黴屈曲して多くの習癖を生じたるが、長じて後ち自から省みて痛歎に堪へず、而も當時の教育法の惣べて宜しきを得ざるに慷慨して、屢ばせナ大學の窓前に泣たり、然れども一旦豁然として、

人間の能力の正當なる方向は、之を其の幼時の天明に於て教練せざる可らず、故に人をして尤も順序正しく尤も調和宜しく發達せしめんと欲せば、教へを怠たりたるとによりて、又は教へを過度にしたるとによりて、又たは教へを誤まりたるとによりて、未だ發達の方向を誤まらしめざりし以前より、先づ早く之を正當に教練せざる可らず、

と開悟して、即はち先づ童顏童戲、寒村の子供を群居して所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

云る幼稚園を開きたり。之れより多くの女性の助力により、多くの學者の賛成に因りて、幼稚園なるものは遂に今日の如くとは成りたり。

抑も幼稚園に於て敎ゆる所ろは、學問にあらず、然れども其の學問にあらざる所ろぞ即はち幼稚園に於ての尤も大いなる學問とは爲るなり。先づ赤き丸を弄ばしむ、次に青き丸を弄ばしむ、次に黄なる丸を弄ばしむ、丸を以ての總べての弄そび既に熟せば、則はち圓柱躰を弄ばしむ、方柱躰を弄ばしむ、多くの六角躰を弄ばしむ、之を轉ばしめ集めしめ散ぜしめ組立しめ、或は歌はしめ踊らしめ談話せしめ、一言するに小兒此の園庭に集合して正當に且つ規則正しく遊戲和樂する所ろのもの也。而して此の遊戲和樂は果して何の効能ありやと云ふに、之れ小供の能力を尤も正當に且つ規則正しく發達せしめて、而して其の發達の方向の苟くも惡しきに迷ふを防ぎ、兼ねて其の尤も感じ易き幼念に極めて立派なる志想の種子を播き置くにある也。左れば丸を弄ぶとによりて物の運動を知り、且つ其の視力を鋭敏にし、角躰を組立るとによりて結搆の道理を知り、且つ其の思考力を養ひ、謡ふとによりて美の念を發達し、且つ其の聲を淸くし、踊るとによりて、容儀を正しくし、且つ其の和樂の心を敎くし、話すとによりて交際を知り、且つ團結賞罰の理を悟るが如き、其の効能の及ぶ所ろ實に莫大なり、蓋し子供は尤もよく騷ぎ、尤もよく遊び、尤もよく談話しするもの也、而して此の騷ぐ遊ぶ話しする等は、皆な其の靈能を發達せしむるが爲めの天然の大運動なれば、凡そ子供を正當に育つるものは、決して之を制す可らず、たゞ其の過度の亂暴に陷いらざるように取締るべきのみ、幼稚園は即はち、保姆と云へる尤も親切なる取締りの下に於て多くの子供をして淸潔に相ひ遊ばしめ、以て彼の天然の大運動をして適當に行はれしむるの職を務むるもの也。

幼稚園の効能に就ては尙多くの言ふべきとあり、現に我國に行はるゝ所ろの幼稚園なるものに付ても亦た吾人大いに說あきにあらず、然れども其等は悉く他日幼稚園本論を述ぶるの時に讓り、今ま「將來の日本人民」を何如せんと考ふるに當りて、先づ第一に切論せざる可からざるは即はち幼稚園の道徳の事也。

吾人は幼稚園の極めて大切なるとを知る也。故に幼稚園の道德にして若淸からずんば、其の及ぼす所ろの關係の亦尤も至大至切あるとを知也。日本人民の輕々しき氣風を改め、之を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して謹嚴剛正の大雄風に移らしめんと欲するには、幼稚園道德の空氣先づ若く謹嚴剛正ならざる可らず、否な必しも直接に謹嚴剛正なれよと云ふにはあらず、即はち其の小兒の心をして謹嚴剛正に向はしむるようにあれよとは云ふなり、幼稚園の事なれば、固より和樂の空氣充滿すべし、歌の聲洋々踊る躰悠々として、保姆は笑み、小兒は總べて爽快なるべし、之れ幼稚園に最大必要する所ろの有樣たるなり。たゞ吾人は言ふ、其の歌ふ所ろの歌に於て、其踊る所ろの踊りに於て、其の和樂する所ろの總べての和樂に於て、苟くも輕躁浮薄の種子を存せず、翌日大謹嚴大剛正の人物を造出するに足るの種子を存せしめよと云ふのみ。蓋し惡魔の子も尙ほ歌舞すべし、其歌舞するに於ては天使の子と同樣ならん、たゞ吾人は言ふ、其の歌舞遊戲に於て樂しましむるとは當に天使の子に於ける如く樂しましむべし、而して翌日其の長ずるに於ては惡魔とならずして天の使となるが如くにならしめよとは言ふ也」。而して如此くに幼稚園を導くの保姆は、亦た自から如此くならざる可らず、即はち自身すでに謹嚴剛正にして而も溫雅優美の德を具へざる可らず、保姆彼自身にして若し如此き德を備ゆるとなくんば、其の敎へらるゝものにして何如で能く如此くなるべきや。フレーベルは其の著書に題して「人類の敎育」と云へり、其の幼稚園敎育の神髓を述べては、「人類を尤も近く神に似するの第一方向を造るもの」と云へり、如此く彼が志望は極めて遠大に、彼が覺悟は極めて謹嚴なりしなり、故に苟くも其の流を酌んで保姆の大任に當らんとするものは、少なくともフレーベルの覺悟の何の點にありしかを知らざる可らず、然るに未だ上帝を信ぜず、人類を愛せず、前途遠大の大進步を確望せず、則はち冷然として徒らに子供のモリと爲るものならば何如ん、吾人は如此き保姆に如此き大任を托するの極めて危險なるに戰栗す。嗚呼幼稚園何の故に大切なりや、其人間の尤も感化し易き初代の敎育を擔當するが故なり、幼稚園の効能何の故に大なりや、其の最始に於て極めて適當なる方向を與へ、以て其の一生七十年の道德を定めしむるが故なり、然らば則ち、此の尤も感化し易き尤も効能ある幼稚園の保姆にして浮薄輕卒なりと云はゞ、將來の日本人民はそれ果して何如なるものとならん。

而して幼稚園は女性の助力なくんば決して行なはるまじきものなり、固より男性とて幼稚園の保姆となりがたきに非ず、現にフレーベル氏は男子にして而して其開園者にてありしな

り、然れども之を概論するに、彼の保姆なるものは實に幼稚園の母なり、女性が之に任じてこそ尤も適當尤も善良なれとは思はる。蓋し創業は男子の任にして、守成は女子の長ずる所ろたり、故に攻擊は男性に屬し、保護は女性に屬す、若し自然に剛武の氣あらば之れ男子に於て結晶したり、若し優文の氣あらば之れ多く女子に於て凝つたり、故に創業的攻擊的の事業が大率ね男性の手に適するが如く、守成的保護的の事業は大抵女性の手に適せり、而して敎育は主として既てに得たる靈能を開發する大守成大保護的の事業なるが故に、其の女性に適するは固より論を待たざるに、特に幼稚園の如き初代の敎育に於ては其の就中女性に尤も適當するの務めたると明白也、思ふに女性が熱心なる、純潔なる、愛深き、極めて切なるの心情は、實に是れ彼の軟和優々たる幼な子を敎ゆるの天使たるに相應するもの也。之を以てフレーベルが幼稚園を開くに當つて、其の第一に助力を訴へたるは女性に向つてなりき、此の訴へを聞いて第一に助力したるものは即はち女性なりき、而してフレーベル死するの后ち能く其の志を大成せしめ、幼稚園の主義をして萬國に傳はらしめたるの大使徒は、即はち亦た悉く女性なりき、伯爵夫人マレンホルツビゥローの如き、姪女シユロイデル孃の如き、アルドリッヒ夫人の如き、ロンパード孃の如き、ルイサフランケンパーグの如き、クリーゲ夫人の如き、クラウスペルチ夫人の如き、ボルツゴール夫人の如き、デロン夫人の如き、マン夫人の如き、又現に倫敦フレーベル會の會長たるエミリー、シルレッフ孃の如き、若くは同じく現に亞米利加フレーベル協會の會頭たるエリサベス、ピーボデー孃の如き、皆是れフレーベル氏の助力者祖述者贊成者たる也」。故に吾人が日本人民の氣風を將來に於て大ひに改造せん(否な寧ろ其の正當に復せしめん)と欲するに就ては、先づ其の任を幼稚園の盡力に歸せざる可らず、而して幼稚園をして眞に能く此の大任を盡さしめんと欲するに當りては、先づ之を彼の熱心なる高尙なる女性諸君の盡力に仰がざる可らず、諸君にして能く此の大任を感じ、天の特命のまゝに謹んで此の大任を盡さるれば、其の熱淚淸笑は能く其の纖手をして大日本帝國の亡滅を挽回せしむべき也。フレーベル氏曰く一國の運命は、大政事家の手によりも、大改革者の手によりも、寧ろ多く婦人の手の上に屬するものなり、婦人は實に人類の敎育者なり、之に因らずんば新時代(新日本)の功業は決して成し遂ぐるとを得ず。

論説

○日本人ハ美術心に富める乎

文科大學　大西祝

日本人ハ美術國である、日本人ハ美術心に富んで居るとは、此頃世間の流行語となつて居る樣に見える、何かにつけて議論のやかましき時節ではあるけれど、此事ばかりハ左まで異論のある樣には見えぬ、日本人は、大概の事には西洋人に後れて居て之と肩を并べるのハ到底も急の事ではないと思ハるゝに、唯々美術の一點に於ては、西洋人に對して耻からぬばかりでなく、却て遙に其上に出て居るともあると云ふが、今の流行の議論と思はれる、其考へからして、或人が日本の國粹と云ふ事を論ぜられた時「予輩ハ敢て告白す、所謂日本の國粹ハ美術的の觀念に存在す」と云はれた、又此頃或人が「坐ながら國を富ますの秘法」を説いて、日本は山川の風光より云ふも、人民の氣象より考ふるも、目に見えて美術に富んで居る國であるから、名山名水のある所には、立派なる西洋造の旅館を設けて、澤山西洋人が遊びに來る樣にすれば、自然と金が我國に落ちる樣になるから、坐ながら國を富すヿが出來ると云はれたともある、此秘法は（若し予が解釋が間違つて居らぬならば）とりも直さず、日本國を西洋人の遊山の地となし日本人を茶屋の女としやうと云ふ考である、此樣な考へが起るのも、又我等に取りて坐ながら國を富ますの秘法があるのも、又我日本國の國粹が保てるのも、皆是れ日本人が美術心に富んで居ると云ふ一點に懸つて居る。

して見ると、我等日本人が美術心に富んで居ると云ふ一事は、此上なく大切な事である、何はともあれ、此事ばかりは決して麁忽にしてはならぬ、今云ふ通り、此一點には萬鈞の重さが懸つて居る、否な我儕が懸やうとして居る、若しそうであるなら、其如き重さを懸る前に、又色々な秘法を發明する前に、此一點ばかりは、何處々々までも左樣か、どうあつても間違はないかと云ふヿを慥めて置くのは、實に肝要なヿである、思ふに、此一點は間違はないと云ふが、當時の多數の議論の樣に見える、然し萬々一にも間違があつては大變であるから、念の上にも念を入れて之を撿ぶるのは、決して無益なヿではあるまい、又美術の事は女子敎育の上に、「女學」の上に、親しき關係のあるヿ故女學雜誌の讀者に一讀を惱ますも決して不適當ではあるまいと思はる、去れば、我等が此に考ふべき問題は、日本人は眞實に美術心に富んで居るかと云ふヿである、我等が攻究の局まる所、縱令ひ、我等が名譽にな

らずとも、若しそれが事實であるならば、我等は不快ながら是れを事實として承認せねばならぬ、我等は如何に高慢な者であるも、事實の前には是非とも頭を下げねばならぬ。

今我等が掲げた問題を考ふるには、先づ美術と云ふは何であるかと云ふとを知らねばならぬ、然し此處では學理の上から美と云ひ「うるはし」と云ひ「ビユーテイフル」と云ふは如何なる者であるかと云ふとを探索するには及ばぬ、唯だ美術の種類を擧げて、それを簡單に說明すれば、それで充分と思はれる、又其種類を說明する中に、我等の問題は自然と解けて來ようと思ふ。

美術の種類は甚だ多い、故に是れを殘らず擧げるとは頗る難いとである、昔から多くの學者が思想を凝したにも拘らず、最も簡便にして、又最も完全なる分類はまだ見つからぬ樣に思はれる、然し此處では我等が通常用ひて居る區別でも別に不都合はない、此區別に從へば、美術には建築。彫刻。繪畫。音樂。詩歌の五種がある、此五種の關係を說き明す前に、一言美術全體の性質に付いて云はねばならぬ。

「美」と云ふは主として客觀的に說き明すべきか、將た主觀的に說き明すべきか、孰れの說を可とするも美なる者は三つの要素より成立て居るとは明である、そして此三つの要素は各々其宜しき地位を保つて居ねばならぬ、即ち相互によく調和して居らねばならぬ、此三つの要素とは、物質（ストフ或はマトル）と法則（ロー）と思想（アイデア或はフオーム）である、例へば、玆に美人の像を刻まんとして大理石を用ふれば、其大理石が物質である、而して其物質は如何樣にでも彫刻師の思ふが儘になるものではない、夫には一定の法則が具つて居て其法則に從はねばならぬ、例へば、重力の法則に逆つては、決して像を刻むとが出來ぬ又無闇に之を犯して刻んだ像は美術上の拙作である、而して彫刻師が大理石に刻み込まんとして居る己が心中にある美人の像が、物質と法則との主人となる所の思想である、此三つの中では思想が頭となつて、他の二つを役はねばならぬ、若し思想が物質又は法則の下に布れて居るならば、是も美術上の拙作である、然しまた思想が無理に法則と物質とを制服して居るのも未だ美術の至らぬ者である、美術の妙處に達する時は、物質も法則も只だ自然に、悦んで、思想に事へて居る樣に見える、例へば、希臘の神妙なる彫刻家が刻んだヴイーノスやアポロの像は大理石が自然に、心から、悦んで其像を取つて居る樣に見える、只だ

の一處も彫刻師が刻み込んだ思想に、いやいやながら降參して居る樣に見える處はない、此樣に物質と法則とが思想と相ひ調和して居らねばならぬ而已ならず、法則と物質とも互に相ひ調和して居らねばならぬ、盲目なる天然の法則(天然力)が亂暴に物質を使役して居る樣に見ゆる處には美術の妙處はある者でない、右の如く三個の要素が皆相互に調和して居らねばならぬが、總じて云ば、思想が主役であるから思想の多き程、明なる程、高尚なる程美術の種類も亦高尚になるのである。

先づ右の如くに、美術の三要素と相互の關係とを陳べ置きて、美術の種類の說明に立入れば、先づ初めに說き明すべきは建築である、此は木石を組立て家屋殿堂となし、其中に思想を現はさんとする者である然し建築に用ふる物質は下に說き明す繪畵、音樂等に用ふる物質(彩色、音聲)に較ぶれば甚しく麁にして、手太して、荒つかな物であるから、之に明らかな又高尚な思想を現はすことは頗る六つ箇敷きことである、夫故建築に現はすことの出來るものは、國民の氣風等の如き極く大樣な思想である、印度の穴中の寺堂が憂鬱たる厭世的の思想を示し、「ゴシック」風の寺院には自づと、意氣揚々たる趣の見えるのは、建築が人民の氣風を顯して居る例證である。

○彫刻は建築に較ぶれば一段上等な美術である、家を建てるには全く美術の爲めばかりを思つては居られぬ、通例の家ならば主として起き臥しの便利を計り、寺院などは說法をなし禮拜をなす便利を計らねばならぬ、而して此等の便利を計れば美術の目的に逆らふことが多い、彫刻には其樣な便利を計ることはいらぬ、像を刻むのは純粹に美術の爲に刻むのである、又建築は材料の粗大なる上に創造的であるから、非常な困難がある、彫刻は之とかはつて、摸擬的であるから、天然の人間の形などを眞似するのである、人の形などには最早天然に物質と法則と思想とを調和してある、そして其思想は、建築に現るゝものよりも著しく高尚に又判然として居る、然し天然の形を眞似ると同時にまた理想を以て之を高めねばならぬ、夫故巧妙なる彫刻師の刻んだ像は、一方より見ば天然の人間よりも一層美麗に一層完全なものである、然し又他の方より見れば、天然に劣て居る處がある、即ち石の像には活動と云ふものがない、生命と云ふものがない、そして最も生命のない樣に見えるのは生物の色合を眞似る事の出來ぬ處である、彫刻では適當に彩色を用ふることは殆ど出來ぬことである、大理石像などの特有の妙處は却て種々の彩色などの飾なく、寂靜

冷然として、容貌の澄んで居る處に存在する。

彩色を以て特別固有の材料とするのが繪畫である、繪畫は摸擬的でもあれば、又創造的でもある、山水家屋の樣な、無情物をも寫せば、又鳥獸人間の樣な、有情物をも寫すものである、繪畫は頗る込み入つたもんだ、樣々な奥深い、高尚な思想を顯すことが出來る、其範圍が甚だ廣い、又彩色を用ふる故幾分か天然の賑かな處、其生命のある處を寫すことが出來る、又繪畫の物質即ち彩色は、建築や彫刻の物質に較ぶれば、著しく精細軟順な者であるから、從て思想に抗抵することも少ない、此等の點より考ふれば、繪畫は彫刻よりも、又固より建築よりも、高等な者と云はなくばならぬ。

繪畫は五種の美術の中前二種(建築、彫刻)と後二種(音樂、詩歌)との中間に立つ者である、前二種は手にも觸れ目にも見える、繪畫は直接には視覺に訴へるばかりで、觸覺には訴へない、音樂は主として想像に訴へ、詩歌は全く想像に訴へるのである、即ち詩歌並音樂にては目に見え手に觸るゝ境界を脫して、不可見不可觸の心靈の境界に入るのである、夫故美術の種類の段階を上る程實物には遠ざかる趣がある、同じ人間の像でも、刻んだ像は紙に畫いた像よりも實物的である、實物的であつて、觀る者の五官に直接に訴へる所から云へば、繪畫は詩歌音樂に勝る所がある、又音樂は繪畫程には判然たる思想を現はすことが出來ぬ、悲哀の情を現はすにも、親が子を先だてゝ悲んで居る時と、夫が妻を失つて悲んで居る時とは、只だ音の調子では之を區別することが出來ぬ、故に感情の區別ある所では、音樂は繪畫に一歩を讓らねばならぬ、然し其感情の程度(即ち強さ)から云ふと、遙に繪畫の上に出て居る、抑も音樂の物質である所の音聲は、殊に精細軟順なものであつて、思想に調和し易いばかりでなく、音聲其物に於て調和を受くることを待つて居る、調子と云へば、先づ何よりも音聲に附いて居るものである、物質と、法則と、思想とのよく相ひ調和して居る所から云へば、又活動のある處から云へば、音樂は繪畫などの及ぶ所ではない、其効力の甚だ大なるが故に、又其効力の由て來る所は調和に存するが故に、昔し希臘人は心意の諸能を過不及なく發達せしむる圓滿の教育をば、音樂と名づけたことがある、支那の聖人も禮樂と云つて、音樂を大層に貴んだことは人のよく知つて居る所である、如何なる伎倆を以て英雄を畫き戰場を寫しても、夫で兵士の氣を勵ますことは出來ぬ、兵士をして滿腔の勇氣を懷て戰場に臨ましむるも

のは音樂である、古人が瓠巴、瑟を鼓すれば琉魚出でゝ聽き、伯牙、琴を皷すれば六馬仰で秣ふと云つたものも實に無理あらぬ語である。（未完）

批評

○歌舞妓の始と云ふ阿國は佐渡の人なる事

知玉叢誌第十七號に、萩野由之氏が寄書に係る右の如き說あり、嬉遊笑覽にも慶長の古記を引いて「お國と申す太夫出雲の者」とあり、一般に左樣に信じたるなるが、此は亦た一つの新說と云ふべし、其畧に云く、

德川家康の庶長子なる、越前中納言秀康か伏見の舘にて歌舞の高手ともてはやさるゝ阿國か、水晶の念珠を䙝にかけしを睹て、御具足の箱より珊瑚の念珠取出し、天下に幾千人の女あれども、一人の女と呼はるゝハ汝なり、感称の餘りに之をとらす也、我ハ天下一人の男となる事かなはず、彼にさへ劣りたるとの無念さよと落涙し玉へりと、常山紀談武家閑談などに見ゆし阿國ハ、即出雲の巫にて、名古屋山三郎と創意して歌舞妓の原をなせりと、世に傳ふるもの是なり、されば人みな出雲のものとのみおもへり、佐渡奇談に云く、慶長の始め京伏見の間にお國といふ歌舞妓あり、佐渡の生れにて、父は本間山城守の一族十郎といふものなり、母遠藤氏は繼母にて、十郎か死後お國ハ九歳の時、上方の人買に此子を賣たるなり、此女子十郎が牢浪の後に生れ、貧しき中に育生ければども、眉目容清らかに才智秀づれば、人買か手より立去て伏見の里に住居し、古の白拍子の流を汲て或は歌ひ或は舞ひ、弟子あまた引つれて後は高貴の御舘へも召るゝとなむ、云々と見ゆ、記して異聞をひろむ。

出雲の巫といふは、人買の手はなれし後、彼國大社に行き、巫覡中に混じて迹をつゝみしものか、尙考ふべし。

○女學雜誌の遁辭

「情」の第二號に、右樣の題を揭げて云く、

女學雜誌記者が男女の交際を論ぜらるゝや今日の年少男女は交際の方法をも心得ず誠に憐むべき者なりと仰られたり故に吾人は年少男女ニ代りて記者先生に交際の方法禮式を說示せられんことを望みたるなり然るに記者先生は今日の女學には男女交際の禮式を說法すべき時にあらずと仰せらる然らば先生は何故に憐むべき年少男女交際法に不案内なりと仰せられたるや佳人に代り少年に答へられたる一文の如き實に冷々淡々として仙人の語に似たり仙人の語は仙人社會にこそ通用致すべけれども有情社會にハ通用致さず先生は婦人を求むる者に帷子を與へ淡を求むる者に冷汁を與へてそれで請求者が滿足致すと思し召すか情交熱心の少年に禮理を說法せらるゝは餘り無情にはおわさずや併し懷劍帶間に任り席を隔てゝ凛然として語る昔の女德決して棄つべきにあらさる也と仰せられたるは吾人も同感なり吾人は平生斯く氣骨凛然たる女友を得たく存じ居るなり

孟子曰く、遁辭は吾れ其窮するを知ると、而して女學子は嘗て窮せざる也、左らば孟子はヨモ之を遁辭とは申されまじ。

○文覺上人勸進帳を讀む（其一）　不知庵主人

過ぎし昔佛蘭西に於て演劇改良の說盛なりし時彼のビクトル、ユーゴ氏は自ら振つて脚本を作り是を梨園の子弟に授け終に其國の演劇をして今日の如くならしめたり憖じて事を爲さんと欲せば喋々是を論ずるよりは寧ろ實行して是を示すの近きに如かず例へば應用化學を研究志カルキユラスに熟達志たる旦那樣がまかつぺらしく飯の不出來を論じたとて米を焚く事は「初めトロ〳〵中パッパ」の原理を解するおさんどんに劣るされば西の國のある人が「生物識の處世論」と云ひしも道理あつて面白志近く我國に起りし演劇改良の如き西洋維崇主義の紳士方が界野なり猥褻なりと文明の先達を氣取りてのたまへどまさかに「マーチヤント、オブ、ヴエニス」を新富坐に演ずべくもあらず「グツド、チーチユアド、マン」を千歳の舞臺に上すべくもあらず無學なり淺識なりと罵らるれどツマリは從來作者の御世話ゝなるが落なり元より我國今日の俳優はブース、ガーリツクなどは申すもおろか往日の白猿松緑にも及ばざる徒なれども今日の舞臺に合せて左程見劣りのせらるゝにもあるまじきにかなしき哉見識の度低くして忽ちに改良論に迷はされ其結果は僅に夢物語となり三府五港となり舞臺に雨を降らせ雪を降らせ船を沈め月を昇らせ臺詞に片言の漢語を交ゑ洋服シヤツポの粉粧をなせし位に過ぎず是と云ふも畢竟は脚本作者に人少なき故なれば若

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し諸紳士方が染久松梅川忠兵衛を厭するの口を箝み劇場新築の計畫を中止し金計り集る算段せずとも第一に斬新なる脚本を作らば此の日本の演劇をして英佛に比肩せしむる事容易ならんと思はる二十餘名の改良發起者抑も如何なる手段を以て改良せんとせらるゝか立派な劇場が落成し巨萬の資本が集れば肝心の脚本なくとも改良の實效を見るべしと思ひ給ふか兎も角も學海先生が改良會員の一人として脚本を著され其模範を與へらるゝは吾ゝ後進書生の敬服する處にして先生が舊學派の中より突進して獨り其衝路に當らるゝの勇氣に驚かざるを得ず吾々は未だ先生が改良論を聞かざれども先生が脚本に輊する事既に數四に及べり而して文覺上人勸進帳は其最絕なるものなり。

行唸生なる人あり報知新聞に投寄し「文覺上人勸進帳及一般の芝居」と題して芝居の性質を說き學海先生及其派の人々に忠告を與へたり縷々數千言頗る剴切にして著實なり然るに時代狂言(英語のヒストリカル、プレイにして日本の時代狂言とは少しく相違せり)を論ずるや大に當を失へりと云ふべし試に其要旨を摘めば「芝居は他の美術と仝じく想像より成る故に正史實錄に拘執すべからず若し正史實錄に拘執すれば芝居の目的なる想像を練る能はず」云々と云ふに過ぎず竊に此說に依て察するに投寄者は未だ時代狂言の性質を知らざるに似たり假りにも文學を論ずる人は(例へば余の如きデモ批評家にても)トラゼディーコメディー及ヒストリカル、プレイの差別位は知るべし縱令芝居通にあらざるも時代物と二番目狂言とを混合するものはあるまじ投寄者は「セキスピヤ、シルレル等のドラマを讀ひし事あり」とサモ芝居の實相を極めし如く日はれたれど台て「ジュリアス、シーザー」を讀さし事あるか又「ウヰルヘルム、テル」を閱せし事あるか勿論投寄者の說の如く是等諸氏の作を正史實錄と比較して評すべくもあらねどシルレル氏にしろセキスピヤ翁にしろヒストリカル、プレイに到ては正史實錄と背馳する事なきを何如せん殊に投寄者は仔細らしく例證として忠臣藏及嫁軍記を擧げられたれど是等はトラゼディーの類にして完全なるヒストリカルプレイにあらず、日はゞ牡丹餅の甘味を賞するに劍菱を持出しピアノの音聞を聞かせんとて銅鑼を叩くが如く具眼の士誰かは抱腹せざるべき盖し歷史は事實の記錄なり芝居は情思の寫眞なり「文覺院宣を賴朝に授く」とは歷史の文面にして文覺の欄發賴朝の懷慨政子が夫を大事にする愛情時政が源家を手に入れんとする姦心を穿つは芝居なりナイト氏がセキスピヤを論じたる言に「セキスピヤを讀む人は須らくプルータークを机右に扣へ其ドラマの毫も歷史と反違せざる妙味を知れ例へば歷史はスケッチ(圖取)の如く僅かに其形をなせしに過ぎざれど是を芝居に爲したる人は先ず色彩を施し光線の照影を顯はし宛然紙上に活動せしめたり故に其國は仝じと雖も趣味に到ては千里の差あり」云々とある如く縱令ひ百家の戯曲を熟讀せざるも若しシーザー(坪内氏譯あり該撤奇談と日ふ)一篇を通覽すれば時代狂言の性質を知り得べき筈なるに投寄者は抑も如何なる論據ありて正史實傳に拘執すべからずと云や蓋し我國に純粹なるヒストリカル、プレイなきは脚本作者大抵淺識にして歷紀古典に暗く且つ當時の法規嚴にして王家公家を憚りし故なり近松巣林子の如き一代の名流と雖も猶ほ其筆を正史に遵ふするを得ざりしは畢竟是が爲のみ(夫すら太平記曙錄の如きは較や正史に近し)投寄者は其文に依りて察すれば英佛獨相漢の文學を研究したるが如けれど是に對疑する余は極めて菲才にして未だ西廂記琵琶記を讀まざれば支那の傳奇を知らず又ボルテイア、ラシーン等を讀はざれば佛國の戯曲を知らず然れどもセキスピヤ及シルレル等は世話物よりも寧ろ時代狂言に於て其才を顯はしたるが如くクレイク、ハズリット、ジャービナス等の批評家一人として「正史に拘執せり」と非難せざるのみか却て「能くも歷史上の人物を寫せり」と讃賞せり元より投寄者の言の如く寫眞術は眞正なる美術を以て目すべからずと雖とも仝じ寫眞繪にても美術の眞理に協はざるも協ふもあれば一括して油畫取へ水畫に劣れりとて美術壇上より退くべきにもあらず想像の名山大川恐く日へばつくいも山水を畫くに自由自在なりとも巍々たる富士山に對して筆を投げ洪漫たる太平洋に浮んで硯を破る樣では名畫工とは云はれまじ若し正史實傳なりとて想像を逞ふする能はずんば秀拔なる脚本作者と云ふを得ざる也又歷史々上の事實なりとて一言に言消すは未だ時代物の妙味を知らざるなり熟々學海先生の脚本を案ずるに先生は時代狂言に長じて世話狂言に短なるが如し賴朝は無双の弓術者なれども楊弓を取るは奥山の姉さんに劣るべく分品利は古今の辨術家なれども駄洒落を云ふ事は圓遊に讓るべしとも思へず先生は唯時代狂言を案じて可なり强て得意ならざる世話狂言を作るは世間に其短を示すに似たり請ふ學海先生我國に完全なる時代狂言なきこそ幸ひ益々勉精して樣大なる筆を振ひ正史に頼りて想像を練り以て行唸生及其派の人々に時代狂言の妙味を知らしめよ。

叢話

○萬國赤十字社大會の感　石黒忠悳述

曩に獨逸聯邦內バーデン太公國のカルヽスルーエに於て開かれたる萬國赤十字社大會へ參られたる軍醫總監石黒忠悳君は歸朝の上　皇后陛下へ奏上せられたる趣きあり右をば小松宮妃殿下の御望みにより去日府下赤十字社に於て演述あり同日日報社と弊社とには特に參聽の榮を賜りたるに付本社よりは佃與二郎出會して右演述を速記し左に其大要を摘す元來赤十字社の事業は　皇后陛下に於て夙に叡慮を掛けさせ玉ふ所ろにして諸宮妃殿下及び數多の貴婦人亦た其の思召しを躰し熱心に賛襄遊ばさるゝ所ろのものなれば我國の女性姉妹は特に尤も深く賛成の意を表して其應分の助力を呈すべきの事業たり因て今ま右演述筆記を掲げ其の終るに至りて赤十字社に關する吾人の意見を開陳し諸姉妹

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の注意を促がさんと欲する也。

本日は小松宮親王妃殿下の御望みに依り先日　皇后宮陛下へ奏上し奉りたる所を申し述るので有りますが、併し此事たる、當時の談話を申上るのでありますから、他の演説の樣に正しく順序を立てゝ申す事は出きません、多分錯雜して居て御倦みになるでありませうけれども、ソハ御宥恕を願ひます、先づ是よりして當日の趣きを御話し致しませう。

萬國赤十字社第四大會には、政府よりは私、當赤十字社より松平乘承君が赴かれたので、兩人共に當九月八日に歸朝致し、其十二日に　皇后宮陛下より御内沙汰が有て、十四日に心覺へを奏上致したるので有りました。

演述の大躰の事　明治二十年即ち西暦千八百八十七年九月廿二日より、獨逸聯邦の内バーデン太公國のカル、スルーエに於て開かれたる、萬國赤十字第四大會の景況は、其の會の終るや否や、直ちに彼地より政府へも本會にも報告致しましたる書に詳らかで有りますから、爰には申しません。本日は、只獨逸皇后陛下及びバーデン太公國王妃殿下を始めとして、婦人社會が、此の會に對して如何なる感覺を以て居るか、又六日間の會議に、婦人社會が如何なる事をなされたか、日本委員に對して如何ある辭を述べられたるかと云ふ事丈けを搔摘んで御話し致します。

會塲の事　萬國赤十字社第四大會は、バーデン國の首都カル、スルーエと申す中府の國會議事堂を用ひ、其の會塲の裝飾は既に進獻致したる寫眞の如く、中央には赤十字、其周圍には同盟國の旗を樹て、恰も本社の二十五年祭と同樣なる有樣で御座いました、議事堂傍聽席の第一の席には、バーデン太公及び妃殿下御家族等が毎日〳〵御出に成て傍聽をなされたから、其椅子が備ッて居る、此のバーデン太公妃殿下と申し奉るは、先頃御逝去遊ばされたる故獨逸大帝維廉第一世の御娘にて、御年齡は四十餘五十に近く、頗る賢德の聞へ高き御方で、近眼で入らせられ常に眼鏡を用ひられて人の顏を窺き込まれる御方で有りました。

各國委員並に米國委員クラ、バルトンの事　亞米利加よりは政府並に赤十字社の派出員として、クラ、バルトン夫人が臨席致しました、他の國では、重に大臣將官軍醫總監次官宮内事務官又非職の内務大臣抔で有ッたが、米國よりは特に此夫人を派遣されました、此の人は、年來米國赤十字社の社長て、最も功績の有る人と申す事です、扨クラ、バルトンは、

婦人の事で有りますから特別の御取扱を受け、パーヂン太公の王宮内に宿を賜り、日々宮内省の馬車で議場に出頭せられ、時として太公妃殿下も御同乘遊ばされました。

各國皇后御熱心の事　傍聽席には、婦人の傍聽を致して居る人が寔に澤山御座いまして、中には諸國の王室から、特に官女を差し遣いされ、傍聽致して居る者が大層に見へました。赤十字事業に就て、帝國王國に於てハ何れも皇后陛下王妃殿下が御熱心に御在遊ばすから、宮中の官女を出して、日々議塲の摸樣を電報で御聞取り遊ばす事で有ります、喩ば魯西亞なれば、魯西亞帝國より總會に出したる議案は如何に確定したか、他國より駁されはせぬか、何れの國が贊成致したかと、熱心に報道を御聞取り遊ばさるゝ程の意氣込で有ッて、皇后陛下杯の赤十字に御熱心ある事は、歐羅巴强國の間に夾ッて居れば、是非爲さゝるを得ない事で、何國の王妃は何の位赤十字に御熱心で有るか、何國の皇后陛下は何の位に人民を愛顧なさるかと云ふは、一に赤十字に依て品評致す位の事で有るから、如何にも文明を以て矜るの國は斯くも有る可き事と存じました。（未完）

マルタよマルタよ爾ち多くの事により思ひ煩ひて心勞せり然ど無て叶ふまじきものは一つなり

〇婦人の德は余韻に在り（其三）

中島俊子

婦人は此の樣に、書くとも出來ず作るとも出來ぬと云ふ、一種美妙なる神髓を有すべきものであります。先づ其の形狀を喩へて見ますれば、夏の日に驟雨がサット降通つて、跡にポウと霞が立つ、山は青々として居り乍ら、此處に糢平たる、詩人が見れば一句を吟じ出しさうなる、風景が現はれるでありませう、叉た山寺のある邊りを通行して見れば、木葉は落ち、日は暮れ、さみしくして友もない、其の時ポウサンが上に登つて鐘を打つ、既に降りて行くあとより鐘の餘音は之を追ふて來る。此處の餘韻は即はち書くとも作るとも出來ぬ所ろで、婦人にありたいと云ふは此の美妙なる神髓であります、即はちさみしき所ろに一種の味はひを附け、悲しき所ろに一種の香ばし味を添ゆるものであります。

然るに餘音はどうも面白くない、實物でなくては成らぬと云つて、或は、鐘を叩くポウサンにならう、落葉にあらう、空みやにならう、目に見ゆる所ろの形ちのある所ろのものであくてはと云ふならば、之は男子にも出來る、即ち書にもかけ、文章にも作れる所ろて、婦人に計り長ずると云ふべき神髓ではありますまい。故に、婦人は何卒そのような目に立つと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

計りに走らずして、餘韻、ヲモムキ、風致と云ふ如き所ろに着目したいと思ひます。

萬事兎角一隨に走るくせのあるは、コレハ我國人の短所です、尊王と云へば天下は悉とく尊王の男子となります、鎖港と云へば亦た誰も彼も鎖港と云ひます、廢藩置縣と云ふても、改進黨と云ふても、自由黨と云ふても、皆なこれで、中に一二人の志しあるものを除けば、他は皆な時論に應ずるのであります。夫故へ婦人論の如きも矢張り同樣で、一と度び女學の事がさかむになれば、天下皆な之に走り來り、誰も〳〵も婦人論を試みます、誰も〳〵女學校に娘をやります、然しアナタ方は何卒此のやうなる騷ぎをなさつては成りません、一人の婦人が書を著はして評判が善ければ直樣著作者にありたいと思ひ、一人の婦人が演說をして喝采せらるれば直樣また演說者に成りたいと思ひ、舞踏でも洋服でも何事でも皆な其樣に人のマチをすると計りでは成りますまい。人間の事業は、一の大ひなる棺に入つたる後でなくては分りませぬ、今日香ひもなく、甚はだあはれに住みて行きたりとも、決して憾むべきとでありません、たゞ一つ〳〵自分が任じたる役割を以て、之を正直に行ふのが人間の義務でありませう。

且つ又た婦人には決心がなくては成ません、或人は婦人に涙みだが多い、憂ひが多いと申します、然し私しの考へでは、之れ決して惡るくない、たゞ餘韻を害するようなるとはあつては成りませぬ、若し餘韻を添ゆる所ろの涙うれひならば、十分にお泣なさい十分に憂ひなさいと申します、然し最早いたし方のないとに涙を落して、一生を憂ひの中に埋めては成りません。特にアナタ方は、演劇の下でしらへをなさり、丁度鐵道のステーションに立つてお出でなさるのです、之よりして東へ行かるゝか、西へ行かるゝか、分りません、然し若し既に西へ行く所ろの汽車に乘つてお仕舞なすつたならば、たとひ東へ行んとの志を持つてお出でなさつたにせよ、此時たゞ東の天計りを望んで憂ひ泣ては成りませぬ、滊車の內には其同行者があります、わが涙だと憂ひを以て其の樂しみを害なひ、反つて婦人の長所たる餘韻を損しては成りませぬ。

○色と慾

みどり

東京日々新聞は、去る十二月一日より「色と慾」と題する新作小說を掲げ初めぬ、此は櫻痴居士福池源一郎君の筆に成るものにて、專ら世界の劣情を罵倒する一種のドンキヷーテならんとは推せられたり、抑も慾と云へば素より極て卑しむべき

ものなるに、世人は之を公けに述べて恥ぢと爲さず、反つて色と云へる一語を口にするを何とあく面白からず感じける、其の過元いろ〳〵ありと云へども、一つには世に清潔の德の行なわるゝ少なきに由るなり、而して今ま風流才子の張本たる櫻痴居士が筆に戯つて斯く遠慮なく白々と其の顔を出すに於ては、吾人女學の爲めに一言の忠告を申し置かざる可らず。彼の六塵の業慾を厭離したる法師も「色好め〳〵色好まぬは玉の卮底なきが如し」と云ひ、嚴肅にして武張りたる梧窓先生も、人に色情あきは天に雲あきが如し、雲あくして天下悉く乾燥するは尤も恐るべきの事なりとは申しけり、此等古人の謂ふ所ろの色情なるものは、即ち純潔なる愛情の謂ひにして、所謂る情交の上の情を云へる義なり、吾人が色の一字を見る當に如此なるべし、而して如此き意義に於ての色と云へる文字は、固より吾人が之を口にして誇り筆にして得意とする所ろのもの也、毫末も公けに唱言して恥る所を見ず。然れども、居士にして若し如此き純潔なる意義に於て此の文字を觀念せず、萬一にもたゞ「慾」に對するの片棒として之を弄び、吉原の看板を書かれたるの筆を以て、廓七に社說を草せられたるの文法を以て、假りにも此の淸き一文字を汚がさるゝに於ては、日本の女學は決して容赦いたさぬ。

○試驗近づく　是空子

女生徒の禁物、試驗は近づきたり、乍ち繩を綯つて盜人の如く夜も眠らず、心を頭上に集めて一心に暗誦復讀をせらるゝあらんが、實にイカンデス。試驗に臨んで騷ぎ廻るほどの女生徒は、妻となつてからは月末歲暮に至つて端と差支へ、預じめ何も考へずに浮々と會計を立る細君と爲るべし、母となつては、子供の生立も考へず、向來の行先をも考へず、時に當つてヒヤリ〳〵と心配計りする輕卒の母と爲るべし、何れも賴母しくなし。學問は何の爲にする乎、自らの爲めか、試驗の爲めか、若し自らの爲めならば常より心掛くべし、常より心掛けて日々に進み來らば、此期に及んで何も心配することはあらざりし也。

○一唱百歎

限りあれば吹ねど花は散るものを心短き春の山風（蒲生氏郷）
ふると見はつもらぬさきにはらへかし雪には折ぬ靑柳の枝（利休）
身にかへて思ふたにもしらせばや民の心のおさめかたきに（後醍醐帝）
榮ね行く子を見る今の身にしめて親の恩みし昔をぞ思ふ（參議持豐）

おさへても堪忍ぶくろあかりせば　曲亭馬琴
何にかいれんかんしやくの虫

○女子看護法の心得(其五)　華族女學校教授　津田梅子

躰より出る吐物の事　今或る仕方により吾等が躰にある腠理を悉く塞ぎ止むることが出來ると假定めたらば何が起りませうか確に死に至ることでございませう此證據はやけどしたる時は狹い場所を深くやけどするより廣き場處を淺さくやけどした方があぶないことでございます何故なれば皮膚は其働をせぬ故でございますそして怪我人は外の急所をよけても皮膚を損じたるが爲めに死することがまゝございます病人の體より出づる排泄物は必ず夜具より外に出づべき道なければ之れを捨てゝ置けば段々其處に重りて再び躰に入ります汚穢物より病氣の生ずるに天然に出る物を再び躰に入るゝは恐るべきことではございませんか是故に度々洗濯し得るケットや上は敷などは日本の夜具布團などよりも用ふべきものでございます日本の物は洗ひ難きが爲に永い間に非常によごれ風に當てゝも日に乾しても取り去ることの出來ぬほどきたない物がつきまする故に是等は度々洗ひ亦は拵へ直さねばなりません殊に寢衣の如きは注意すべきことにて兎に角夜具は二組常に備へ置き度々風に當てたり乾したりせねばなりません是は唯病人のみに非ず都ての人に當はむ可きことでございます偖て右のことはよく人の怠る事でございまするが朝起たらば直に夜具を殘らず裏反し上は敷ケット共に振て空氣の流通よき處に置き決して寢衣其他の夜具を直と疊んで仕舞はず二十分間かもう少しも永く風に當て出來たならば日に當てゝ後に仕舞ふべき事にて是は決して破る可らざる一の規則でございます又都て躰に觸るゝもの寢衣にせよ肌衣にせよ少くも一周一度は是非換へねばなりません私がまゝ見まするに日本人の内には一周に二度躰を洗ひ一月に一度下着を洗ふ人がございます。

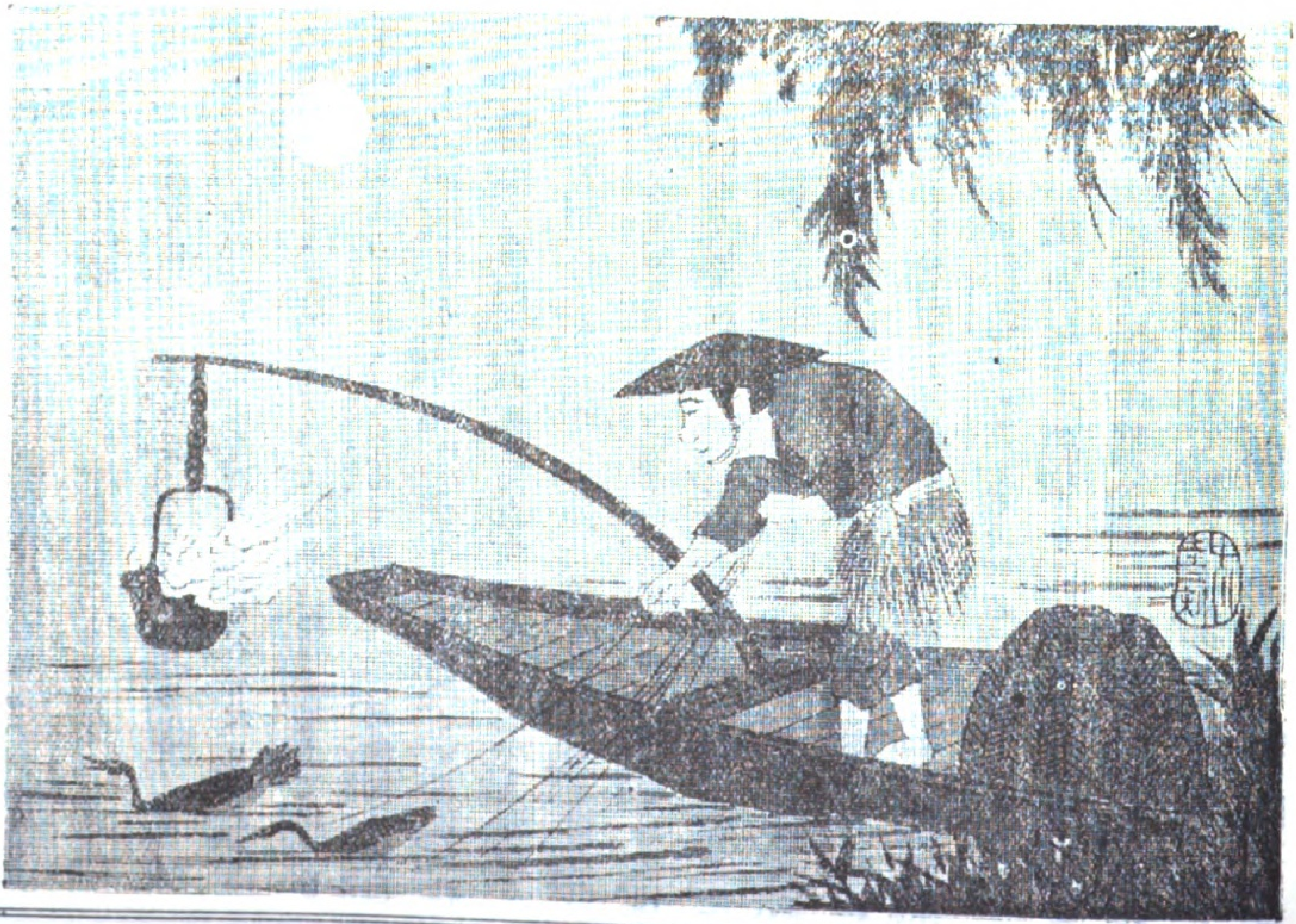
看護者は醫師の助けとなる事　看護者は醫師の言はれたる事を忘れぬ内に書き留めて直に見える處に置き又藥を飲せる時間も共に書付けて置けば記憶の勞も省き又外の看護者が代りたる時も夫れを見れば分ります極々危篤の場合には人の記憶に依ることも出來ません左樣な場合には病躰を少しも洩さず守り目を離さず病者の樣子を見て居らねばなりません看護者は注意の仕方を習ふべきことでどう云ふ事に格別目を付けて見るべきやどんな事が病氣快方のしるしか或は重るしるしか如何なる容躰が大切か大切で無いか見分けねばなりません勿論是れは極く稽古を積み病氣の摸樣を學ばねば分りますまい病人の食餌病人の氣分其他一切の容躰によく氣を留めずして

醫者に間違た容躰を述るほど療治にひどい妨と爲るものはございません。又弱りたる病人が自分で容躰を言たり又は自分の容躰に氣を付けたりするは病人に取りてよくございませんたとへ左程弱りたる病人でなくも余り色々事を看護者又は醫者から聞かれるのは實にいやなもので病人自身容躰を言ふときは度々容躰を大きく言過ぎたり小くしすぎたり致します。

○婦人衛生一斑(妊娠養生の事)（其七）

櫻井郁次郎述　佃與次郎筆記

姙婦の飲物の事　穀物から、肉類、菓物と、食物の種類も色々ありますが、何れが惡るいと云ふとは無い、通じて用ゐられます。次に、飲物、飲物にも色々あります。湯、水、茶、珈琲の樣なもの、或は酒、牛乳、ソップ等、此の飲料の中で、何が宜しいかと云ふに、歐羅巴の人は水であると云ふが、私は日本の人には白湯の方が適當と思ひます。有機物も煑殺すと云ふ樣なこともありませうし、何うしても惡しき水は直ぐに用ゐられませんから、一度煑た方が宜しい。茶も不斷用ゐて宜しい、茶の事に就ては、歐羅巴の書物抔では、衝動性のものだと云ふので、産後の婦人抔には禁じてありますが、是れは風俗と、習慣で、朝に晩に、日本の人は茶に馴れて居りま



す、故に茶は左程に身躰の害にありません、茶は餘り飲み過ぎると、夜る眠ることが出きぬと云ふ樣なこともありませうが、我邦では決して茶と云ふものは忌むべきではありません、書物だけでは畏るべき樣だが、是れは少しく斟酌しなければならぬ。然し我國の人にはコーヒーは少し注意しなければならぬ。又ソップ杯は、其人の好みに應じて用ゐるがよろしい。酒は餘り賞美すべきものではありません、妊娠中は特別に注意しなければならぬ。是れで飲食物の大畧は濟みましたから、是れから住居のことに就て聊かお話し致しませう。

妊婦の住居の事　住居の事に就ては、机の上で論ずるとの易くして、實地には隨分六ケしいものであります。今一人に就ての有樣で、斯う云ふ家屋が適當であると云ふても、一方の人には適當しないこともある、又幾ら適當しても、人によりて住うことが出きぬと云ふものもある、且つ衣食住の住に就ては、餘り申すことも無いが、只空氣のよろしい樣に、流通の好き所が眼目で御座います。（未完）

婦人の最も美はしき者よ、なんぢ若しらずば群羊の足跡にしたがひて出でゆき牧羊者の天幕のかたわらにて汝の羔山羊を牧へ。

小說

○哲女の巻

（第九回）　花散里（上）　月の舎忍

一連帶の白衣見わたす限りに廣ごり、山も谷もたゞ仲よく一つの衾に被はるゝと見えたり、左なきだに蕭殺として何とあう哀れに靜かなるものを、夕陽今や海上二三尺の雲間に出沒し、水に映る錦の光り其名殘の道を追々に短かくするにつれて、此向の山の霞は段々と勢ほひを強むるが如し、人は面々の城に立籠りて只だ息氣を吐くのみ、出でゝ此の神聖なる白衣を踏破らんとはせざるべうなり、時に一つの長蛇遙かに彼向の山の際より現はれたるが、蟠蜒して瞬時間に近よるを見れば、吐く所ろの白氣は歩々に立登り、轆々たる響きは異國にありと云ふ響尾蛇の音よりもすさまじ、嗚呼來れり、通れり、嗚呼すでに哮然として通過したり、則はち之を見れば京濱間午后五時發往復滊車の過るなりける。

如此き光景を破れたる小さき窓より望見して、戶部の山傍に最と幽かに烟を立つる哀れある茅屋あり、屋根低く籬くづれ大抵の板戶は皆な剛情にして容易に主人の命を聽かず、但し今日は天の白粉に塗れて、平日の醜き面色を示さず、同じく是

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れ金殿玉樓に連續して亦彼の一つの衣もに包まれたり。間數は二つ三つやあらん、何れも小さしと見ゆるが中に、先づ、宮城に於てはお目通りの場所とも稱べき第一の應接間には、足弱き机二脚相對して並び、三四冊の洋書半ば開らひて仰臥したり、何如さま主人は大望のある書生なるべし。天下の大任を一身に引受て、吾れ出でずんば蒼生を何如んせん、然し玄德此の所に見舞ひ來る迄では、輕々しく出でじ、尤も今の世あれば相略して一度の招き丈けにて勘辨は致すと、中々に開らけたる氣輕の諸葛先生や在れすかと見れば、平兒帶の跡もなくして戸の無き戸棚に女の帶一つ蟠かまつて見え、柱の針に掛つてダラリッと縊れたるは、確かに女の古羽織とは認めらる。實に然り此は三四ヶ月前より女主人二個の寓居となつて、四偶近邊の風評の問題たる、最と奇しの世帶場あり。扨て其の台所とも申すべき一方は、眞とに名詮自證の小き台に似たり、一つ竈にふすぶつたる考古的の釜を載せ、折くぶる薪は意地わろく燃付かずして之れぞ激せざる君子ありと誇るめり、本箱のフタに大根二本而も能く洗れざる儘に辞常に居直り、半ば銷たるナイフ傍はらに立つて今や仕置と相扣へぬ、向ふに撿視する鍋殿は、蓋を見失なひてたゞ大氣に口を開らき玉ひ、成配早々其の躰だを引取らんとは待たれける。玆に御眼こを磨り〳〵、火吹き竹を口に當てゝ屈み玉ふ姫御前あり、昔しは深窓に養なわれて多くの侍女供にかしづかれ玉ひしならんが、世が世を追退けて、今の見そぼらしき姿たに落ぶれ玉ひ、古へ政岡が御主君の爲に忠仕したる例しもあればとて、涙だ一滴落さずに潔ぎよく暮らし玉ふかと申せば、之れ亦た當らず、實に之ぞ自由の精神に病後の衰ろへを引立て、高尙凛潔に友人の宅を見棄てゝ、寧ろ貧苦に苦しめらるゝよりも不快の保護を受じと覺悟したる、彼の靑山（即ち春日）剛の友人、四條哲娥にてはある也。

火は燃えず、煙は遠慮なく滿々たるに、狹き臺所には身を反れす避場所もなく、遂に降參してホウ〳〵の躰にて逃げ歸り、障子をハタとたてゝ、カッパと平伏し、口鏡を外づして散々に涙だを施したるが、

ヲ、煙いこと、何故あのように燃付かないのでせう、切めて好さんの歸るまでに少し手助けを仕様と思つても、火一つ燃えては呉れぬ、あゝ家に居つてさへ此樣に寒いのだもの、さぞ外方は寒いでせう、ホンニあの子のある計りで私しも先づ差支へなく斯うやつては居られるものゝ、元はと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

云へば私しの意地から出たとて、夫れであの子に迄で斯様心配をさせるのは實に可愛そうでなりません、好さん實に有がたう思ひますよ、然し斯う計りでもありません、今少しです辛棒して下さいよ、切度其内には私しがまた十分に働らけるように成りませうから……

恰かも人の居る如くに獨語したるが、

それにしても歸んなすつて火でもなくてはさぞ寒からう、どれ火だけでも熱して置ませう

と火鉢に殘つたる火を、此れを先途と整へつゝ、菓子箱の中より炭二三本取出し、火箸にて程よく叩き折つて積かけたるが、幾何學に練りに練つたる頭腦も、炭の積ようには適用せられず、空氣流通の理窟も火の熱しように臨んでは左程の效能なしと見へたり、消なんとしては吹く息氣に呼かへされ、一つ二つパシ〳〵と挨拶のひゞきを鳴らして又もや眠りかゝるを、やう〳〵に引止めて先づ火の氣を炭の端に移らしめたり、之れよりは早や女學士の手練に由るにもあらず、元來炭の宜しからざるお蔭を以て、烈火に燒る、土釜の如く、炭山乍まちにして崑崙の一火する有樣とはなりにける。

ア、やれ〳〵うれしや、やつとの事で火が熱つたよ、どうか歸んなさる迄で、燗ないように仕度ものですが、そして私しはまづあの寫し物を仕舞ませう。

引出しより取出す寫しものは、當地何教會の先生が說教の筆記を出版あらせられんとするの淸書なるよし、切てもの暮しの助けにとて、哲が引受けて僅かの賃金にて之を寫すなるべし、マルチノウが王義之の筆を揮つて、亞米利加の田舍牧師の說教の反譯のつゞり合せを寫す、疳癪にさわると固より多き筈なり、

ソコデ地球の終には破裂して仕舞うと云うとは今日歐米の學術者が皆な申すとて、其が亦た此の本文に能く合つて居ると云ふが實に不思議です、終の日に至り地球がパチンと云つて彈じる、其時コソ乳飲兒を持てるものは災わひなる哉、家根に居るものは其儘に逃れよ……

あゝ何だナー、此んな詰らないとを、地球が破裂したとして家根から何處に逃げるのです……

如此く聖書に書いてあるとは今日の學術と合つて居るので、實ゞ數千年前に書いたものが、此の十九世紀の腦髓を病ましめた決果と同じと云ふのは、どうしても此の書が神の御手に成つたと云ふ證據です、只今のと同じ事で、

今日天文學者が誰も承知する、チブカノセリーと云ふものは彼の創世紀の‥‥

あゝどうも〳〵困りますチー、いつそ少し直して遣らうヤ切度喜こぶだらうから。

嗚呼此の一枚五厘の筆工は、大胆にも原文を直し初めたり。

佳傳

○正傳尼、妙海尼（下）

妙海尼と後に申たるは、即はち正傳尼が幼なきより育てたる孫女順にして、彼の堀部安兵衛の字なづけの妻なり、國難に臨み義士四方に散亂したる時は順は祖母と共に大石氏の一家に從がひ山科に隱る、此時仇の家は良雄等が復讐の事あらんとを懼れて日夜警備怠たりなし、何如にしても近づきがたきに因りて、良雄は順以下六人の女に計ごとを授けて最初先づ五六の家に仕へしめて、暫らくして暇を取らせ、遂に吉良家に入込みて宮仕へせしめぬ。

仇打の夜は、上野介轉居の前祝ひありたる當夜にして、若し一旦居を轉じて新居に行たらんには、用心いよ〳〵嚴にして迚も復讐の見込なきに付き、順は則はち逃れ出で丶此事を良雄に報じ、遂に彼の夜本望を達せしむるに至りぬ。良雄は後ち順を見て再たび密旨を與へければ、義士悉とく死を賜わりたる後ち、順は長崎清泰禪寺の和尚にて實の叔父に當れる蕭山師の許に至り、祝髮して尼とならんとを請へり、蕭山の云ふには汝ち年少くして志操尚ほ動き易し、俄かに佛に歸するとも決して頼むに足らずとあつて、之を一室に閉ぢ僅かに飲食を通ずる計りとし、如此くして三年に至りたるに志し尚ほ衰ろへざりしがば、蕭山即はち好比丘尼なりと云つて剃度せしめ、名づけて妙海尼と云へり、此時年十九。

妙海尼は良雄の密旨、祖母正傳尼の遺言を荷ふて、是に於て單身旅裝し、諸國を巡つて江戸に來り、幕府の執政早朝登城するの途に於て、訴狀を竹に挿はさみ、走せ寄つて訴へんとす。從者大ひに驚ろき之を捕へて吟味すれば、只だ淺野氏の嗣を復せられんとを請ふに止まる義なれば、則はち叱して之を退けたる迄でなりしに、一ヶ月を經て再び他の執政に興訴し、卻けらるゝと初めの如し、然れども更らに屈せず、三たび亦た同じく訴狀を興訴したれば、時の制度として止を得ず獄に下されたり。

然るに其の女流なるを以て罪せられず、引出されて申し諭さ

るゝには、淺野長矩罪あつて死を賜ひしなれば、何如に願ひ申すとも其の封を復さるゝとなし、此後ち若し訴ふるとを止めずんば、罪當に測られざるべし、とあるにぞ、妙海天を仰いで歎じ、妾固より死を決せり、然れども死して益あきは寧ろ亦た時を俟つて再たび發するに如かずと觀じ、則はち謹んで退き、都外龜井戸村に廬を結んで朝夕讀經し主家の興復を祈り、後ち泉岳寺四十七士の墓側に居を移して、念佛唱名したり、此時執政松平正武、妙海の名を聞きて之を見んと欲し、將軍も亦た之を引見せんと仰せられたるが、妙海謝して出でず、主家復するにあらずんば、老尼の望すでに絶す、何の爲めに將軍を見ん、况んや執政をや、とて遂に其命をきかず。此の孃、此の女丈夫、此の淸純ある好比丘尼は、年九十餘にして安んじて其庵に眠りたり。

右兩尼の傳、多く澹海の文に據りたり、其の遺績にして倘ほ聞くべきものあらば、請ふ惠報せよ。　かすみ

賢く事をなす女子は多けれども汝はすべての女子に愈れり、豔麗はいつはりなり、美色は呼吸のごとし、惟エホバを畏るゝ女は褒められん、その手の操作の果をこれにあたへ、その行爲によりて之れを邑の門にほめよ

寄書

○文苑　鈴木弘恭大人撰

枯野　木村花子

野べ見れば尾花が袖もうらかれてほのかに殘る秋のおもかげ

浦冬月　高橋のぶ子

冬されど須磨の浦わの月ばかり物すさまじき限りともなし

寒草　田邊朝子

手をるだに惜しみし庭の女郎花いまはもどろに霜かれにけり

同　池田孝子

なかなかに枯行く草ぞやすげなるのこるを花に風さやぐころ

水鳥　跡見もと子

うすらひの寒けきとこもをし鳥の夢ばかりこそとけて結べれ

同　片岡君子

夜もすがら上毛の霜を拂ひつゝうきねのをしや夢もむすばぬ

同　浦早苗子

よを寒み玉藻の床にうきねしてつま呼びかはす水とりのこゑ

木枯　土屋岑子

聞もうし庭のしらかし椎の葉をしひても拂ふ木からしのかぜ

夜落葉　小出悌子

小夜ふけて人のとたえし柴の戸をおとなふ物は木の葉也けり

隠士歸山　大谷恵子

塵の世をおもひうとみて遠山にかへるも高きこゝろなりけり

相思曲。第一あの子　柳倉あすか主人

秋風の吹くにつけても我心。水ならなくに動くめり。奇しきかくすし。夕露の置くよつけても我袂。草ならなくに濡るゝなり。あやしきかあやし。吹く風に如何なる力こもるらん。あの子のこゝろ。置く露に如何なる情けふくむらん。あの子の涙。いざやいざ音つれて見ん風の便りに。

今様　桐北居士

ふけ行秋の夕まぐれ。獨たゝずむ庭の面に。
鳴雁かねの聲落て。木の葉をさそふ風寒し。
風は梢にさやぐなり。水は谷間にこたふなり。
夕日きはゆき山の端は。錦の床を敷にけり。
妻戀ふ鹿の聲きゝて。獨ねる夜の夢枕。
窓に音なふものとては。紅葉をいそぐ村時雨。
月影さへて夜や寒し。蟲の音さへもよわりゆく。
野守か庵は雁かねの。涙に袖やしほるらむ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○第一地方部の女學

檜垣文部視學官は、本年四月十九日東京を發し、八月十一日大臣へ復命し、第一地方部内の學事に於て多くの有益なる報告を與へられたり、中に付き

各縣敎育上著眞なりと認めたる事件の一項中、乃の女學に關するものを拔錄すれば

埼玉縣には　入間郡河越尋常小學校の女子就學の數は殆んど男子と匹敵せり。

群馬縣には　別段の事なし。

栃木縣には　師範學校に女子部の設けあり亦中學校にも女子に稍高等なる普通科を授くるの途あるを以て女子の敎育に便益を與ふると少しとせず隨て小學校に於て往々女敎師を見る。小學校の稍著眞なるもの五つある內宇都宮尋常科西校（男女とも）東校（女子の分）栃木女子尋常小學校等あり。

茨城縣には　別段の事なし。

千葉縣には　同前。

神奈川縣は　資金と女敎師との多きを足柄下郡（小田原）男女高等尋常小學校とす。

山梨縣には　小學に於て敎授管理の最も整備せるものを西山梨郡甲府尋常科男女兩校とす其敎授の適實親切なる管理の整頓せる（主に訓導以上の受持たる敎室に就て云ふ）各府縣廳所在地の小學校中稀に見る所也。師範學校に於て新規施行の事項中女子に裁縫外の手工を課し其の收穫の幾分を生徒の所得として貯畜せしめたるとあり。

靜岡縣には　師範學校女子部の生徒學力身躰稍や精撰に近し其の普通躰操は動作活潑規律整然たり。

新潟縣には　別段の事なし。

長野縣には　諏訪郡にては各尋常高等小學校に裁縫專門生徒を入れ家庭敎育家事經濟修身上の事を口授し兼て簡易の算術假名の consume方書方を敎へ或は學校內に子守女子を敎ゆるの方法を設けたるものあり。其他各郡にても女子の敎育に從意するもの多し東筑摩郡松本開智小學校の如き裁縫專門の女子百餘名の多きに及べり。

附言。右第一地方部の師範學校に女子部を設くるものは靜岡長野新潟栃木山梨千葉の六縣なり。

○藝娼妓は公けに立出づ可らず

女子演說の盛んなる比ろ、地方に於ては藝妓迄が演說したるとあり。然るに之と同じく近來は藝妓にして議員に勸告書を送り、又た娼妓にして納稅の事に建白書を呈したるものすらあり、察するに此等は皆な之をアヤツリナ言はしむるものゝのあるならん歟、よし然らざるとも如此き妓流は一切公事に喙を容るゝを許さず、彼等は只だ面てを隱くして、黒夜の中に潛そみ居るべきもの也。

○橫濱禁酒會雜誌　橫濱に於ては林務氏發行兼印刷人として稻溝謙一氏編輯人として題名の如き雜誌を發行せられ其の第一號去十七日出版せらる、發行の主旨殷正にして編輯の躰裁甚だよろしく禁酒雜誌中第一等者の地に立つもの也橫濱の如き土地に斯る雜誌の起りたるは更に賀すべきと也。

○築地監督敎學校　築地の監督敎會より女生徒を二名撰拔して洋行せしむる云々府下の諸新聞紙に見ゆるに付社員は同所の三一學校に趣きて之を質したるに左樣のとなく大方近々彼地より女敎師二名渡來せらるゝとの誤ならんと云へれたり。

○幼稚園　築地本願寺境內に設けらるゝ幼稚園は去る二日より開園し東京府學務課の官吏林京橋區長及び區府會議員の諸氏にも參園せられたる由。

○高等師範學校女子部　同校にては去月三日入學試驗を執行せられたるに及第して入學せられたる者ハ左の如くなりと云ふ

群馬縣深谷ふく子、千葉縣鈴木みね子、岐阜縣深川とし子、靜岡縣三角すゞ子、東京府明石よし子、神奈川縣板倉すゞ子。

○宇都宮女學校　野州宇都宮の有志者は一の女學校を設立せんとて既に其筋へ願書を差出したる由なるが來一月頃開校の運びに至るべき都合にて敎授にはフルし、デビットソンの兩夫人並に櫻井女學校の卒業生某等なりと云ふ。

○發狀　野州佐野町の有志者は一昨年來婦人手工會なるものを設立せられしが一時立消えの有樣となりしに今回更に佐野婦人協會なるもの設立せらるゝの計畫ありと云ふ○三重婦人會は去月十九日津開懇親會を津公園內なる威明館に開かれたり○秋田縣鹿角郡花輪小學校敎員川和田かち子其他有志者の發起にて此度鹿角婦人會なるものを設立せり○西京同志社女學校にて去月廿一日十年期祝會を開かれたり○雲州松江の有志者は婦人衞生會なるものを設立せり

外報

（此の欄內自由に轉載を許す）

○織工女寄宿舍　既にも記したる英國のメリー、フハイルデン女史が計畫に係る織工女に安全なる廉價なる下宿屋を供ふるの企はカムブデンホールに於ての經驗成功したれば此度愈々其の規模を擴ろめんとて手廣ろき土地を買入れ八千磅（四萬圓）にて其の寄宿舍を建設せんと用意中の由なり。

○ウエストミンスター織工女院　The Westminster Working Women's House と云ふは仕事をする婦女子の爲めに交詢案內をするものにて英國ロンドン議院の近邊にあり其仕組は雇主たるものより二十五錢の金を預ねて拂置けば時に臨み其の雇入れたき女子を雇ひ得る筈にて而して其の雇入の時更に二十五錢の禮金を拂ふ筈のよし右女院にては之にて支へ雇へれ女よりは一錢も入費を要せざる由又て其の女院の本部には一室に裁縫室と云ふあり又た子供を預かる室あり入口のなき女を寄宿せしむる室あり此內子供を預かる室と云ふは子供のある母にて外に出で自由に働らくとの出來ぬもの〻爲めにするものなりとぞ。

○米國禁酒院　米國禁酒院即ハちテムペランス、テムプル新築の工風を聞くに之はマチルダ、カース夫人が專ばら擔當する所ろにてシカゴの正中に十二階の大家樓を築き之を數百のオフヒスに仕切りて貸與し其の家賃を取りて本部の維持と爲すことなるよし而して資金聚集の計畫は先づ十萬圓の株金申込次第六十萬圓の院債を發し十年後償却には五分二十年後償却には一割の利子を附することとす而して此の院債券を發する後ちは株の所有主は亦た此の院債券に買ひ代ゆることを得べし尤も株としての所有主は（一株百圓）此の建築の家賃より上る利益のある迄は利子を受けざるの定めなり斯て年々家賃の上りより或は利子を拂ひ又は券を買戻して遂には全く禁酒會の所有となすの目論見なりとぞ。

○植村正久島田三郎兩氏演述　兩氏が倫敦に於て演述したるものゝ筆記を印刷しマックル女史は四方に散布したり而して其の一葉を同女史より送られたるものを見るに植村氏は明治女學校の爲に島田三郎君は同志社及明治學院の爲に熱心に諸人の賛成を乞はれたる旨の語あり其他種々の事に付きて兩氏が演說したるを評し同女史は之をホンガリーのルイコッサッス、ポーランドのコスシウスコ一派の愛國者なりとして世に紹介したり。因に云く同女史は此等の爲めか來年は日本に來りて傳道上の景況を取調ぶると云へり。

小供談

○正直なる小娘　（其二）

ヘッチーは急に召止め、

モシ〳〵アナタどうして其樣な事が言はれませう、其は虛言でありませんか、私は虛言を申しますとは出來ません、

アナタは何故どこ〳〵へ行と云ふことを明白に仰しやつたのでせう、夫を聞かせて置て虛言を言へと敎へなさるのは無理で御座います。

それではヘッチーさんは私しを敵に賣しなさりたいので、私しが殺ろされてもお構ひなさらんのず乎、アヽアレアレ最う來ました馬の足音が聞へますよ、どうぞ兵隊に左樣言つて下さい願います、切度神さまはアナタを惠みなさいませうから。

虛言を吐いて神さまのお惠みが得られますものですか、デスがあなた私しは虛言は吐けませんが、然し兵隊にアナタの行先を言はなくてはならんと云ふことはありません、例令ひ殺されても申しませんから、アナタはどうぞ早く逃げて下さい。

ダがもう遲くなりました、モウだめデス、モウ逃げられません、アヽ何處か隱れる所ろはありませんか。

夫では早く〳〵此處へ來て此の布の下へお隱れなさい、其上へ布をかけますから而して私しは前の通り此の布を晒らして居りませうから。

モウ別に仕方が無いから左樣しませう。

斯くして、グリスヲルドは布の積かさねたる下に隱れたる所ろ、早や既に騎馬兵一隊追かけ來り、道を沿ふて走り過んとしたるが中なる士官らしき一人ヘッチーを見て突然馬を留め聲高く召かけて問ふやう、

アナタは此の道を逃げて往つた男を御覽なすつた乎。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

女學雑誌代金滯候御方にして

毎々御催促申上候ども何ほ御拂込無之仁あり而も其御住所すら分明ならざる向も候まゝ如此き御方に限り以後雑誌上に於て御催促申上候に付不悪御承知被下度候但し本社は専ら信義を重んじ候心得に有之決して軽々しく右様の取計らひ不仕存候得共何分三四ヶ月以上も滯り居り候上毎々の御催促に一錢をも寄せられざる諸君に對しては實以て不得止の處置と御許容あり度預め申上置候也

女學雑誌社會計係

淑女之苑發行廣告

右は江湖貴嬢方の御投稿を掲載するを目的としたる雑誌にて十二月廿日第一號を發兌仕候就ては文學技藝何にても登録仕候間澤山御投稿を乞ふ○本誌は賣捌所に差出さず候間直接に御注文を乞ふ○一部七錢○六部四十錢○十二部八十錢

發行所 東京四谷區南寺町十八番地 成蹊社

女生徒募集廣告

定期試驗結了補欠トシテ寄宿通學共入學ヲ許ス今般高等及幼年科ヲ設ケ一層女學ノ完全ヲ計レリ右幼年生ノ爲メニ別ニ幼年舍ヲ設ケ相應ノ傅母ヲ附シ丁寧ニ教授ス且今般本學ノ組織ヲ改メ大ニ教員職員ヲ改良シ別ニ老年ノ取締ヲ置キ平生校内ニ起臥シ諸事生徒ノ監督ヲ爲ス志願者ハ至急申込アレ

右今般本學校長ト相成ラレ候ニ付此段廣告ス

華族 伯爵 庭田胤子

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 東京女學

交詢案内

（催促する勿れ郵券十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

十一 學婢 年齢十五六位の基督教信徒にして炊水の業に從事し傍ら英學裁縫等の修業に志ありて給料に望なき者を雇度所あり

十二 下婢 年齢廿歳より五十歳迄の基督信者を雇入度者あり

十三 家婢 基督信者より他に家族なき武官にて[illegible]を雇ひたし尤も年齢相當以上にして[illegible]みあるものを要す

●雇はれたき方（乙）

六 奉公 地方の女學校卒業生にて東京に出ては可成西洋人宅にて[illegible]に雇はれたき一婦人あり給にて何時にてもよろし

七 裁縫 年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇はれ度き者あり華族か所家ならば大家のかたき内にて空地なくば通いても宜しとの事其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三 教師 栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教師に雇はれたきもののあり可成くは神田か駿河台辺を望む

十四 洋行 自分は[illegible]なる十八歳位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學術研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて洋行を願ひたし

一九 召使 裁縫の教授を專にし其他女子學校等監督師留守居様の者に雇はれたし

二〇 裁縫 年齢十四五才にて華族様か政官員方の御方之内に小間使に雇はれたし最も裁縫に召使はしくだされば給料は不申受

二四 奉公 年齢廿[illegible]才にして一と通り裁縫もいたし[illegible]の生れつきにて[illegible]家婦か中以上の官員方へ小間使さに奉公いたし度し給金は望む以上に願ひたし

二五 裁縫 裁縫は和洋共に婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に教師に雇はれたし

改良速記法

自宅獨習生募集無束脩●學資一ヶ月三十錢●郵劵二錢投セハ規則速呈●別ニ速成科ヲ設ク

東京本郷區元町二丁目三番地

大東速記學協會

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

巖本善治編 女學叢書
木村鐙子小傳
定價十錢 郵稅六錢

右は鐙子刀自の傳記にて姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものあり

文法口授
鈴木弘恭大人著 ○一册定價十八錢

右は明治女學校、成立學舍女子部、跡見女學校、頌榮女學校、長榮女塾等の教科書なりし處**第一高等中學校**に於ても此度び亦た此書を以て**教科書と認定**せられたり、他の各女學校及び男子の學校に於ても同樣に採用せられんことを請ふ

●通信女學講義錄
巖本安賢

通信女學講義錄は每月一册發兌にて大抵六七十枚づゝあり母親又は妻君方が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なれば每月其一册を讀もて行き二三年を經れば和學、理學、地理、歷史及び子育方、女子生理、家內理學、經濟學などの一斑を承知すべし。之は一册二十錢にて半年前金一圓一年前金二圓也。當十一月にて既に第十五卷を發兌したるが、第十三號よりは讀者大に增加したるより隨つて第一卷より第十二卷迄凡そ一年分は都合五十部ほど餘まり居るに付之を賣拂ふべし即はち其定價を減じて**十二册**（從一卷至十二）**一圓**及び郵稅**廿四錢**にて賣拂ふべし尤も五十部より外は即はち第十五卷まで揃ろい居るに付き定價通りならでは賣拂ひ不申候、よつて右御入用の方は至急御申込ありたく候事但し府下は配達料十二錢可申受候

京橋區日吉町八番地
女學雜誌社

發兌

九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢 郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會合會等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる場に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部附の割合と定む

一行（廿七字詰） 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社誌の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新段町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町協春堂○同本郷區谷木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文書堂○橫濱住吉町角田屋貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出店○京都四條通小橋西へ入済集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大本村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町廣進堂○廣島縣大手町一丁目星經社○長崎利屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町燐平堂○土佐國高知本町三丁目榮園堂○熊本文明堂

明治二十一年十二月六日印刷
明治二十一年十二月八日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

巖本善治編 女學叢書

木村鐙子小傳

定價十錢 郵稅六錢

右は鐙子刀自の傳記にて姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものあり

文法口授

鈴木弘恭大人著〇一冊定價十八錢

右は明治女學校、成立學舍女子部、跡見女學校、頌榮女學校、長桑女塾等の教科書なりし處第一高等中學校に於ても此度び亦た此書を以て教科書と認定せられたり、他の各女學校及び男子の學校に於ても同樣に採用せられんことを請ふ

●通信女學講義錄

巖本安資

通信女學講義錄は毎月一冊發兌にて大抵六七十枚づゝあり母親又は妻君方が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なればは毎月其一冊を讀もて行き二三年を經れば和學理學地理歴史及び子育方、女子生理、家內理學、經濟學あどの一斑を承知すべし。之は一冊二十錢にて半年前金一圓一年前金二圓也。當十一月にて既に第十五卷を發兌したるが、第十三號よりは讀者大に增加したるより隨つて第一卷より第十二卷迄凡そ一年分は都合五十部ほど餘まり居るに付之を賣拂ふべし即はち其定價を減じて**十二冊**（從一卷至十二）**一圓**及び郵稅**廿四錢**にて賣拂ふべし尤も五十部より外は即はち第十五卷まで揃ひ居るに付き定價通りならでは賣拂ひ不申候、よつて右御入用の方は至急御申込ありたく候事但し府下は配達料十二錢可申受候

京橋區日吉町八番地

女學雜誌社

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價			
一冊。五錢	郵稅。一錢	（但府內無郵稅）	
十冊。四十八錢	郵稅。十錢	（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行	一回	（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社說の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殷々堂〇同芝西久保櫻川町萬春堂〇同神田區雉子町團々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新肴町長明堂〇同京橋區木挽町壹丁目萬字堂〇同本郷區元富士町盛春堂〇同本郷區春木町二丁目解明堂〇同本郷四丁目文書堂〇橫濱住吉町角田屋直〇同太田町三丁目島文堂〇同日月堂〇同本町六丁目日の出店〇京都四條通小橋西へ入森半光堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード〇大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町本村文助〇尾張國名古屋本町石版社〇出雲國松江新町盛進堂〇廣島縣大手町一丁目早速社〇長崎濱屋町虎與號〇江州彦根西內大工町新々堂〇相州小田原緑町石崎堂〇上州高崎田町煥平堂〇土佐國高知本町三丁目樂園堂〇熊本文明堂

明治二十一年十二月六日印刷
明治二十一年十二月八日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen.* By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichô, Shinbashi, Tôkyô, Japan.